



2018年度 年間聖句

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章26節

自由へと召される

前広島女学院中学高等学校校長 星野晴夫先生



毎年、クリスマス礼拝の中で高校生全員が歌うヘンデルの「ハレルヤ」の大合唱は、女学院生の歌声が輝く一大イベントです。41年前、音楽科の新任として入った私はその練習を任せられ、一斉練習で短時間に数百名を訓練する難しさと、放課後残されて少しいざそうな生徒を前に戸惑っていました。懸命に指導したつもりですが、歌声は小さく積極性も認められません。意義が感じられず、聖書科の藤川辰夫先生に「来年はやめたい」と相談したほどでした。そんな折、県の音楽教育研究会で、ある公立高校の新任の先生による男子20名程の授業を参観しました。公開の参観授業というのに生徒は私語はするし歌声も小さく、授業は失敗だったなと気の毒に思っていたところ、続く研究会の冒頭でこの先生は「今日は本当に良い授業が出来ました」と満面の笑顔です。あっけにとられました。彼にとって音楽の授業はいつも教室に来ない生徒を探まわることから始まり教科書など持っても来ない。他校の先生方が来られるこの研究授業を機に、「時間通り全員音楽室に、教科書を持って来よう」と何度も生徒と確認しあってきたところ、何とこの日生徒は約束を守ってくれた、というのです。私は女学院という恵まれた環境に居て、異なった環境にある人の苦勞が見えていなかった自分を恥じると同時に、この先生が生徒達を動かしたエネルギーを私もあきらめずに生徒に注いだら、女学院生は驚くようなレベルのものを作り上げられるはずだと直感しました。生徒に力が無いのではなく、自信を失った教師の心が生徒に投影されていたことに気が付いたのです。

私たちは頑なになって心の自由を失っていることに気付かないことが多いのです。聖書には「兄弟たち、あなた方は自由を得るために召されたのです」(ガラテヤの使徒への手紙5:13)とあります。主イエスは十字架に自らの自由を犠牲にし、復活を通して私たちに真の心の解放を与えてくださいました。このイエスの召しに応じて、真に自由に豊かな人生を歩んでくださることをお祈りします。

(今年3月1日、高校卒業礼拝でのあいさつより)

どうする、ブロックの活性化

—永遠の課題からの脱出を願って—

四国ブロック長

田中 チカ子（大英17回）

このたび女学院同窓会編集委員会から本号への寄稿依頼を受けました。これからの四国ブロックの活性化について、私なりの考えや思いを述べたいと思います。

毎年、年度初めの4月、校母ゲーンズ先生のご命日に合わせて開かれる同窓会全国代表者会議。今年も午後のセッションでこの話題を出すと、ある地区の代表を長年務めておられる方から眠気を覚ますような現実を聞きました。そのご報告とは、地区長の役割をそろそろ若い人に譲りたいと提案したところ、即「死ぬまでやってください」という反応が返ってきたのです。本当は「なり手がいない」という深刻な現実なのですが、図らずも会場全体が大きな笑いに包まれました。皆さん、似たような状況を抱え共感されたのでは？…と感じました。

この日一番の笑タイムでしたが、実のところは深刻です。私たちの四国ブロックは社会的にもマイノリティー。幸いなことにブロック内の両支部で少し顔が見える関係ができてきつがあります。まずそれぞれの支部の、そしてブロック全体のこれからの活性化の戦略を世話人会（のような集まり）でアイデアを出し合い、投げかけ合い、当ブロックにふさわしい活性化の道と方法をみつけていきたいいな、また時間がかかるのは承知のうえで、仕事を分け合い協力していけるブロックに育つといいなと願っています。まずは模索から…。お祈りください。



8月6日まで私は女学院生だった…

1945年4月、広島女学院高等女学校に入学するも、8月6日の原爆で家族や家を失うなど様々な事情で学業を断念せざるを得なかった内田瞳さん（86才）。女学院で学んでいたという証しがないだろうか…と知人の共同通信の記者を通して学校に問い合わせたところ、なんと記憶を頼りに先生方が走り回って作られた在籍簿の写しの中に内田さん（旧姓宮木）のお名前があったのです。今年8月6日生徒たちの平和記念礼拝のあと、内田さんの在籍を証明する修了証が渡辺信一校長より渡されました。73年ぶりに母校を訪れた内田さんは、「修了証を頂けるなんて思ってもいませんでした。長年の胸のつかえがおりました。私の一生の宝にします」と涙を流しながら修了証を胸に強くさしめておられました。



渡辺校長から「修了証」を受け取る内田さん

2018 平和祈念式報告 8月6日

被爆73年の祈念式がゲーンズホールにて、中高生の献茶と折り鶴献納に始まり、大学聖歌隊の合唱、湊院長・学長、大矢同窓会長、大学生船木奈々果さん（管理栄養学科）の追悼のことはいずれも世界平和を強く祈念するものでした。式後、東京支部長でフリーアナウンサーの白井京子さんによる被爆60周年証言集の朗読が行われました。サーロー節子さんが書かれた「ヒロシマを語り続ける」を情感豊かに朗読され、会場は静かな感動につつまれました。



朗読する白井 京子さん

Letters
from
同窓生



靴職人
実久 直子さん
(短大30)

広島出身。15年間勤務した金融機関を辞め、英国に語学留学。引続き英国で靴作りを学ぶ。日本に戻り、広島で注文靴工房を立ちあげる。その後イタリア流の靴作りを学ぶために再び渡欧。そして日本に。工房Mishoeの共同製作者としてオーダー靴・舞台靴・ターンシューなどの製作、販売を行う。

女学院短大の2年間、学業は大変でしたが、部活のバスケットで先輩達と過ごすことができ、とても楽しく充実した学生生活でした。

OL生活後、いわゆる自分探しの為に渡英。そのカレッジに製靴コースがありました。モノ作りに興味があり、世界で通用する技術を身につけたいと思っていたので、靴作りに決め、それに没頭しました。その後英国・伊フィレンツェで靴を作り、今は浅草の舞台靴工房で働いています。オペラ・ミュージカル・芝居の様々な靴を製作しますが、2016年NYブロードウェイの「Kinky Boots」の日本初演の仕事は、特に印象深いものでした。NYと同じ靴を日本人キャスト用に製作する仕事で、12cmヒールを男性が履いて踊る為、強度・フィット感が求められました。舞台は大成功。NYにも認められ、私達も大満足でした。ただ舞台靴は、製作期間が短く、『小人の靴屋』が欲しいと時々思います。その他にターンシュー製法の靴（軽く柔らかい）を手掛けており、横浜・広島でオーダー会を行っています。

また毎年フィレンツェで靴を作り、外国の方と出会い、革・文化・食・環境と様々なことを教えられます。今や私の靴作りはフィレンツェ無しでは語れません。これからも靴作りを通して多くの方と出会い、学び・遊び・時間を共有したいと思います。



ターンシュー



Kinky Boots



フィレンツェのサンダル



イラストレーター
松尾 たいこさん
(短大33)

広島県呉市生まれ。セツ・モード・セミナーに入学、1998年からイラストレーターに転身。第16回ザ・チョイス年度賞 鈴木成一賞受賞。これまでに手がけた本の表紙装幀画は300冊以上。江國香織との共著「ふりむく」角田光代との共著「Presents」著書に「35歳からわたしが輝くために捨てるもの」「クローゼットがはちきれそうなのに着る服がない!」など。9月には扶桑社より新刊が出る予定。

私は女学院短期大学部で2年間を過ごしました。高校までは共学だったので、女性ばかり&制服がないということがとても新鮮でした。そして広いキャンパスでのびのびとした学生生活を送らせていただきました。その後、地元で11年間の会社員生活を送りましたが、子供の頃から好きだった絵を勉強するために上京、ふたたび学びの2年間を過ごし、公募展に応募したり出版社への作品持ち込みを経てイラストレーターとしてデビュー。単行本の表紙のイラストを手がけたり、テレビコマーシャルを担当したり、商品パッケージへ作品を提供したり、さらにはエッセイなども何冊か出させていただいています。もちろん大変な面もあります。仕事が立て込んで辛いこともありますし、逆に急にぱったりと依頼がなくなったり。そんな時に、スケジュールをうまく調整し、自分をアピールする方法を考え、ここまでずっと仕事を続けてこれました。9月中旬には新しい本が出ます。私は整理整頓や断捨離が大好きなので、その方法などをお伝えする内容になります。久しぶりに開いた卒業アルバムの中の20歳の私は、まだ何者でもなくて将来についても不安が多かったけれど、ここから今の私につながっているんだなあと思うと、その頃の私に「大丈夫」って声をかけたくなりました。



角田光代さんとの共著「なくしたものの国」の表紙絵



企業広告イラスト(2011年)

2018ホームカミングデー報告 ホームカミングデー実行委員長 功野博子

2018年ホームカミングデーは4月21日「こころをひとつに～あやめの伝統をつなぐ～」をテーマにリーガロイヤルホテルにて同窓生の歌「どんなに時が流れても」を参加者326名が歌い幕を開けました。

湊院長・学長より大学の定員確保の嬉しいご報告と「キリストのかおりを放つ人に」という礼拝の熱いメッセージ。そして、昨年結成20周年を迎えたクワイヤアイリスの素晴らしいステージ。どちらも心に染みるものでした。歓談、食事の時間をたっぷり皆様存分に楽しんで頂きました。

母校の発展のための創立130周年記念募金を会場でお願したところ、多くの方々にご協力を頂きありがたく感謝でした。

この一年、女学院愛いっぱいの皆様のご支援に助けられ、実行委員は母校の伝統を胸に心をひとつにして準備をさせて頂きました。豊かな恵みに感謝いたします。



クワイヤアイリス ステージ

「学年幹事の集い」の報告とお願い

6月9日(土)90名の学年幹事が集い、音楽ユニット「リンデンバウム」のミニコンサートを聴き、ホームカミングデー実行委員の引き継ぎを行いました。

尚、同窓会の運営をスムーズにする為に転勤などの諸事情で学年幹事を続けて頂けない場合は同期生で務めて下さる方に必ず引き継ぎをお願い致します。



支部会だより

この度の平成30年7月豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震の被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。

埼玉支部会 | 6月16日(土) / 参加者9名 神楽坂「千」

明治時代から「文士の街」とも呼ばれ、古き良き花街の香りが残る神楽坂。その石畳の路地は迷路のようで、粋でお洒落なお店ばかり。柔道着生地製のバッグや、又、流行りの甘酒の飴などお買物しながら和食処「千」へ。美味しいねと笑顔で食し、皆さんお話しが弾みます。「これまで出席しなかったことは、もったいないことをしたと気付いた」との初参加の方の言葉は嬉しかったです。皆様!一度ご一緒しませんか。



(清水敬子/短17)

愛媛・高知支部会 | 6月21日(木) / 参加者14名 松山全日空ホテル 日本料理「雲海」

支部会当日は、西日本に大きな被害をもたらした豪雨の少し前、後にも先にも「この日しかなかった」という清々しい日でした。お迎えした本部役員さんたちからお聞きした学院を取り巻く明るいニュースは、同窓生としてはこの上ない喜びでした。近況などを報告し合うと、今回も「エーッ!」と驚く新しい発見がいっぱい。生き方のヒントをいただき勇気づけられることも多いです。一度支部会に参加されてみては?



(田中チカ子/大英17)

賀茂地区会 | 6月30日(土) / 参加者38名 hana café

今年は同窓生経営のカフェで開催しました。小田部三恵子さんの礼拝、金谷信子さんの「軸がぶれないための生き方をもとめて」と題しての講演、松井美智子さんのパンフルート演奏、山田典子さんのマンドリン演奏(マンドリンの伴奏で校歌も歌いました)など盛り沢山の内容とおいしい料理で、楽しいひと時を過ごしました。今回は初参加の方が8人、新たに若い役員も増員し、少しずつですが賀茂地区の輪が広がっていきます。



(脇幸子/高27)

呉地区会 | 6月30日(土) / 一部講演63名 二部43名 呉阪急ホテル

念願だった湊院長・学長をお迎えしての2年ぶりの呉地区会でした。「女性の一生を輝いて生きる秘訣」と題して、85年の人生からの生きたお話に感動して聞き入りました。24年ぶりの土井由美子さんのピアノ演奏も力強く胸うたれました。呉地区では毎年11月3日のバザーにむけておしゃべりを楽しみながらおしゃべり小物とクッキーを作っています。今年は10月31日(水)12時～阿賀公民館2Fでクッキーを作ります。ご参加お待ちしております。(たのしいですよ)



(小島敬子/高28・短27)

新オリジナルグッズのご紹介



カープ女学院Tシャツ

カープ優勝時ファンが一つにまとまる姿に驚かされました。愛があれば団結できる、同窓生も愛校心に気づけば一つになれる、とカープ女学院を企画、現在3点を発売中です。

最後まで諦めず立ち向かう女学院生のキャラクターを描いてくれた藤田浩子さん(旧姓大矢/高29・文日11)、どら焼き製造元の蜜屋本舗さんをはじめ、データ化やその他で助けて下さった同窓生の方々。皆さんの女学院愛を受け、最速での商品化となりました。

この先のカープ女学院シリーズにもご期待下さい。(事業委員長 山口 曜子)



カープ女学院どら焼き



チケットケース

岡山支部・福山地区合同支部会

6月9日(土) / 参加者29名
イースタウン レストランチャルル

今回は初の福山と岡山合同の支部同窓会で、ゲストには、アメリカでアジア人初のメソジスト教会牧師として長年ご活躍された、同窓生の三宅展子さんをお招きしました。女学院大学卒業後アメリカに渡られ、アメリカ社会の中でどのようにご自分の道を切り拓いてこられたか等の、ご苦労話や学生時代のこと、平和への思いなどざっくばらんにお話しくださいました。同窓会のつながりを改めてありがたく感じるひと時でした。岡山支部では毎月一回、讃美歌を歌う会を主催しております。女学院以外のご友人なども大歓迎で、しだいに輪が広がっています。今だからこそ心に響く讃美歌の歌詞を味わいながら、同窓生の皆さんと交流を深めています。(黒住章子/高34)



神奈川支部会 あやめ会

6月13日(水) / 参加者49名
横浜クルーズ「ロイヤルウイング」

天気は晴れ。偶然にも、一人の東京支部役員のご縁でサービス価格の企画になり、神奈川以外からも多くの参加者があって、大盛況。広い明るい部屋を貸し切って、4人がけテーブル14卓。年齢の近い方達で卓を囲み、ゆったりと飲茶コースを楽しみながら、おしゃべりに花がさいた。食後はデッキに上がり、横浜港内、ベイブリッジの下をくぐっていく船上で、優しい海の風を感じる事ができた。



(陣崎佳子/高29)

佐賀支部会

6月23日(土) / 参加者14名
割烹「津田屋」

今回の支部会は「えつ料理」を味わう会として梅雨の晴間の日を楽しみました。本部から大矢会長はじめ3名、福岡から瀬良支部長他6名と佐賀支部会員で佐賀駅北に集合。送迎バスで30分かけて諸富町の津田屋に到着。「えつ料理」は皆さん初めての方ばかり。えつは有明海のみに生息し、この時期にだけ味わえるカタクチイワシ科の魚です。お店の人が持って来られたえつを皆記念撮影。えつのせんべい、刺身、煮付、南蛮漬けなど堪能しながら歓談しました。その後、すぐ側の筑後川にかかる昇開橋(旧鉄道橋)まで散策しました。当支部会では、毎年春に会を開催し、秋にある福岡支部会に参加しています。現在会員が25名です。3名の世話人で、楽しくて有意義な会になるように講演会や演奏会、ミニ観光等を企画しています。(諸隈啓子/高16)



東京支部会 あやめの会

6月24日(日) / 参加者43名
オーバカナル 紀尾井町店

東京支部の今年のあやめの会は、紀尾井町の素敵なカフェランチの後、赤坂迎賓館を見学し、20代から80代までの同窓生で楽しい一日を過ごしました。12月8日には銀座教会でクリスマス礼拝と同窓生の中国新聞記者、森田裕美さんのお話を聞く茶話会を予定しています。又、東京支部では、この度、手芸部が発足しました。お喋りしながら可愛い小物などを作りましょう。是非、支部会の催し物にご参加下さい。



(白井京子/高23・文英5)

関東ブロック 原爆死没者追悼礼拝「夏雲の集い」

7月7日(土) / 参加者68名
銀座教会

礼拝では「神を賛美し神の言葉を聞く事は非日常であるが、イエスは常に共にいて下さり、祈る事が生きる歩みを豊かにする」と教えて頂きました。広島の大雨で講演者の上京が不可能でしたが、出席者の中のNY地区長竹内道さんに幸運にも代役を頼み、ヒバクシャストーリーズ、サーロー節子さんとの出会い、被爆二世に語り部のバトンが渡されているという話を頂きました。この巡り合わせにより今年の夏雲の集いがより意義深いものになりました。



(村中陽子/高27・文英9)

小さな祈りの影絵展 2018

同窓会作品 「未来への手紙」

原画
野村 久子



2018年度年間行事予定

10月 5日(金)	広島地区会 ANAクラウンプラザホテル広島
10月20日(土)	福岡支部会 ホテルニューオータニ博多 大観苑
11月 3日(土・祝) 11月 7日(水)	同窓会バザー 中部ブロック会 名古屋ミッドランドスクエア 松山閣
11月23日(金・祝)	サーロー節子氏特別講演会 13:30~15:00 広島女学院大学砂本記念講堂
11月24日(土)	山口支部西部地区会 山口グランドホテル 日本料理「雅」
12月 1日(土) 12月 8日(土) 12月13日(木)	クリスマス会(佐伯地区) 佐伯区役所 クリスマス会(関西ブロック) 大阪東十三教会 クリスマス会(宗教委員会)
2019年1月	高校 同窓会受入式
3月	大学 同窓会受入式

2018年度全国代表者会議

2018年度全国代表者会議が4月20日(金)午前11時45分より中学チャペルで開催された。大矢会長の開催挨拶後、礼拝、永眠者への黙祷。出席者はブロック長、支部長、地区長、本部幹事、事務局の42名。議事は書記が2017年度事業報告を、会計が2017年度の会計報告を行い承認。2018年度事業報告を書記が、2018年度予算を会計が提案し、それぞれ承認された。

本部幹事

本部幹事 副会長 就任 岩崎 裕香(高32・文英14)
会計 就任 竹内 路子(高24・文英6)
退任 佐々木 礼子(高37・文日19)

2017年度 収支決算書

2017年4月1日から2018年3月31日まで 広島女学院同窓会 2018年3月30日作成(単位:円)

科目	2017年度予算	決算(2018.3.31)
収入の部		
同窓会会費	7,950,000	7,919,460
大学 15,000円×304-540	4,650,000	4,559,460
高校 15,000円×223	3,300,000	3,345,000
会友	0	15,000
事業収入	1,000,000	1,888,726
グッズ販売	600,000	1,372,290
バザー	400,000	516,436
雑収入	30,000	30,175
受取利息	0	57
寄付金	0	165,000
三菱UFJ信託銀行より	0	5,000,000
前年度より繰越金	18,593,805	18,593,805
合計	27,573,805	33,597,223

科目	2017年度予算	決算(2018.3.31)
支出の部		
事務費	2,210,000	1,390,826
消耗品費	180,000	132,537
備品費	1,000,000	228,289
人件費	1,030,000	1,030,000
事業費	3,216,000	3,429,702
全国代表者会議費	800,000	770,665
宗教委員会費	110,000	97,266
事業委員会費	571,000	933,175
バザー委員会費	100,000	79,987
同窓会報編集委員会費	1,325,000	1,288,500
学年幹事・名簿委員会費	210,000	160,109
ホームカミングデー補助費	100,000	100,000
母校支援費	1,900,000	1,902,732
アイリスセンター維持費	600,000	600,000
ゲーンズ奨学金	800,000	800,000
卒業証書カバー補助	500,000	502,732
通信費	190,000	158,819
電話料	120,000	107,839
郵税	70,000	50,980
旅費交通費	650,000	475,060
同窓会館運営費	165,000	142,636
水道・光熱費	140,000	134,353
消耗品等	25,000	8,283
慶弔費	200,000	119,450
雑費	500,000	349,599
予備費	200,000	0
創立130周年記念募金	10,000,000	10,000,000
平和祈念式口座へ繰入	50,000	50,000
基本金引当資産へ繰入	0	0
(小計)	19,281,000	18,018,824
次年度へ繰越	14,316,223	15,578,399
合計	33,597,223	33,597,223

同窓会バザーのお知らせ

日時 2018年11月3日(土・祝) 10:00~13:00
場所 ゲーンズホール前テント(バザー)
同窓会館(Café アイリス)

バザーのための献品を常時受け付けております。

お問い合わせ:同窓会館 TEL/FAX (082) 221-1059

召天

謹んで哀悼の意を表します。

濱野浩枝(桑田)	高女45	伊佐木隆子(久保)	高女40
梶谷光子	高21	赤澤京子(木原)	高女51
藤田友子(池田)	専経1	三浦美乃枝(吉和)	高女55
西川郁子(石原)	短17	和田ふき子(吉村)	専庭6
金森里美(浜田)	短30	浮田純子(勝本)	高12
二宮順子(尾崎)	短19	秦野玲子(三宅)	高24
松野富香(溝尾)	短4	飯田ユリ(熊谷)	高3
山本澄子(河内)	高10大英10	野中八重子(野中)	高女41
堀内佐智子(進藤)	高女50	高橋房江(佐々木)	専被4
星出瑛子(沢)	大英13	寺本早苗(好田)	高女45
井上久仁子	高8大英8	越水紀久子(内田睦美)	大英7
鈴木和賀子(杉本)	専家26	秋本由紀(馬明)	高36
木下真智子(山田)	高女51	赤木田鶴子(中野)	短14
畑 千代子(三宅)	高女52	島津喜子(高橋)	高6短5
山下宣子(長野)	高女52	隅崎侑子(明田)	高女45
神川隆子(吉川)	高女54	堀川安子(三宅)	高女50
里見慶子(木戸)	高9	砂川昭枝(橘高)	高女51
山本俊子(林飛)	高11	坪井須美子(児玉)	高女45
佐々木陸子(池田)	短11	大原澄子(大原)	高女48
上中早苗(新谷)	専短15	須藤洋子(坂井)	高女55
久保節子(奥野)	高10	中村道江(笹谷)	高女56
佐久間カズミ(久保)	高女45	森本順子	高女56
清水俊子(田中)	専被3	吉本八千代(小倉)	大英5
湯野川 翠(永山)	高女52	中岡勝子	高女55専被5
大三輪喜代(森田)	高女44	清水ツヤ子(国本)	大英7
雷吉憲子(中川)	大英4	山根素子(三村)	大英4
上田 緑(神田)	高女50	津田總江(田中)	高6

2017.11月から2018.7月までにご逝去のお知らせをいただいた方々です。(敬称略)

編集後記

嬉しいお知らせを二つお届けします。花あやめ5号の中高大の食堂特集を読まれた方から、「中高の食堂でミニ同期会を開き、美味しく懐かしくて女学生の様にはしゃいでしまいました」というお便りを頂きました。経営者の手島さんは残念ながら7月末で引退され、9月から新しい食堂に生まれかわりました。広島女学院同窓会の被爆証言集「平和を祈る人たちへ」が中国新聞のジュニアライターの選ぶ「是非朗読して伝えたい原爆体験記10冊」に選ばれました。ぜひご一読ください。(編集委員 金信 美幸)